

結城さんへの追悼文

「飯岡さん、その方向性でよろしいのではないですか」

今でこそ、浅学の私が職場で「著作権、育成者権、不正競争防止法」を担当しているが、恥ずかしながら、知財法と私の関わりは、学部、職場を通じて無縁に近いものだった。

それが数年前、突如1年間での修士論文書き上げを職場より命じられ、知財法の専門家や実務家、頭脳明晰な若手研究者に囲まれることになった。無論、ど素人の私は、毎日の授業が、知らないことだらけで試練の連続であり、授業を消化するのがやっとであった。

冒頭の言葉は、そんな不安感の中、高林先生のゼミで2回目の修士論文の中間発表後、恐る恐る、論文の方向性・内容について結城さんにアドバイスを求めた際、結城さんより掛けられた言葉である。

この言葉に救われ、また、背中を押され、1年でなんとか修士論文を書き上げることができ、感謝の気持ちでいっぱいである。

そして、結城さんを見ていて1番影響を受けたのは、熱中できるモノを見つけ、それにのめり込みながら、最晩年まで過ごすことである。それは、凄くカッコいいことだし、素敵な人生であると実感している。私も充実した生を全うできるよう、これからも研鑽を積んでいきたい。

結城さん、本当にありがとうございました。どうか安らかに眠りください

飯岡 哲平